



F-NIPPON

*R***RACING PRESS**

apan

**2011 JAPANESE CHAMPIONSHIP
Formula NIPPON Round1 SUZUKA**



2011 SUZUKA 2&4 RACE

SUZUKA CIRCUIT

SUZUKA CIRCUIT



Text

島村元子

Editor

吉川絹恵

Photo

鉄谷康博

加藤智充

中村佳史

**2011 JAPANESE CHAMPIONSHIP
Formula NIPPON Round1 SUZUKA
5/14-15**

鈴鹿サーキットでの開幕イベントは 伝統の2&4レースでスタート!

ロッテーラが逃げ切り、開幕戦を飾る!

SUPER GT 同様、全日本選手権フォーミュラ・ニッポンも開幕イベントが延期され、ようやく鈴鹿サーキットでの初戦を迎えた。

今回の「SUZUKA2&4RACE」は国内の4輪および2輪の最高峰レースが一度に楽しめるという“おトク”な一戦だった。

今季のフォーミュラ・ニッポン (FN) は、参加ドライバー16名のうちルーキーが7名というフレッシュな構成。ちなみに、その中には元F1ドライバーの中嶋一貴も含まれている。さらに弟・大祐も父の悟氏が率いるチームから参戦。兄弟対決も見もののひとつになる。

今季初の予選で大活躍したのは、参戦2年目の山本尚貴。ベテラン勢を出し抜き、見事自身初となるポールポジションを獲得。カラダいっぱい喜びを爆発させた。

ところがレースになれば事態は一転。スタートを出遅れ、焦った末に他車と接触。ピットにマシンを戻し、再スタートは切ったものの勝負権は完全に消失した。代わってトップに立ったのは、小暮卓史とアンドレ・ロッテラーのベテランふたり。トップ小暮をロッテラーが猛追する形でレースは進み、規定のピットワークを迎える。ひと足先に作業を終えたロッテラーに続き、小暮がピットに戻るも、タイヤ交換に手間取り、大きくタイムロス。小暮は怒涛の追い上げを見せたが、途中、タイヤにフラットスポットを作ってしまう、ペースアップならず。結果、ロッテラーがそのまま逃げ切り、開幕戦を優勝で締めくくった。

【結果】

優勝	36	アンドレ・ロッテラー	PETRONAS TEAM TOMS	38周
2位	32	小暮卓史	NAKAJIMA RACING	38周
3位	37	中嶋一貴	PETRONAS TEAM TOMS	38周



ピットワークが明暗を分ける。

小暮、無念の2位。



2nd

デビュー開幕戦で見事表彰台!



3rd

若手・山本尚貴が光る速さを披露!
ポールポジション獲得!



秋吉耕佑が驚異的な速さで優勝。



震災被災者の伊藤真一選手が引退を撤回して
レースに復帰! 多くの被災者に勇気を与えた。
レースでも見事表彰台を獲得。

[結果]

- 優勝 秋吉耕佑 F.C.C TSR Honda 15周
- 2位 中須賀克行 YSP Racing Team with TRC 15周
- 3位 伊藤真一 F.C.C TSR Honda 15周



THE FACE
CLOSE-UP

Naoki
YAMAMOTO
山本尚貴

Text by M.Shimamura

Photo: Yasuhiro Tetsutani

